

港湾荷役業における荷姿の物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	14～15	営業部から顧客宅へ向かうと途中、原付で交差点手前信号が青になったので進もうとした所、相手（車）が曲がってはいけない所を曲がろうと急に出てきたので回避できず、ぶつかってしまった。	51	300～499
1	13～14	当営業所野積作業場にて、フラットラックコンテナに積載された貨物の状態を確認するため、1人で貨物の上に乗り作業をしていた際、バランスを崩し、高さ1.9mより地面（アスファルト）に落下し、腰部を強打し動けなくなった。	47	10～29
1	14～15	被災者は玉掛作業兼合図者として従事していた。100トンクレーンで吊られたH形鋼（高さ25cm、幅12.5cm、長さ10m、重さ290kg）10本を船内に積み込む際に、H形鋼の端を掴んで積み位置の調整をしていたが、吊荷の状態でできたH形鋼とH形鋼の隙間に右手人差し指が入っていることに気付かず、着床した際にその隙間が閉じたため、挟んで負傷した。	35	10～29
4	9～10	接岸中の本船において線材の揚げ荷役を開始した直後、3段積み貨物の最上部にてスリングベルトを線材に通そうとしたところ、スリングベルトを落としてしまった。2段目に落ちたスリングベルトを拾うため、線材を背に尻部から降りる際に足を滑らせ最下段まで滑り落ち、身体を支えようとして左手をつき手首を負傷した。	52	30～49
5	16～17	漁港岸壁で漁船より冷凍カツオの荷揚げ作業において、1班5人で船倉に入り冷凍カツオを両手で持って積み込む作業を、朝から夕方までの間に、40分作業20分休憩で行なった。当日は雨で、防寒手袋をはめた両手が濡れていた。作業中、指の感覚が無くなり、痛みもあったが、被災者はこの作業が2回目であり不慣れで、班のうち他の4名が知り合いのため、休憩時間も一人で休憩していたので、指の感覚	43	10～29

		が無いことや痛みの情報を共有できず、また、作業責任者も別の班で作業しており、状況を把握できていなかった。作業終了後も痛みがあり、後日に凍傷だと分かった。		
5	21~ 22	被災者は、20フィートコンテナ積み作業の誘導の為、艙内に降りていた。4本中3本目の荷役中に積荷コンテナがエントリーガイドに引っ掛かり、クレーンオペレーターが作業をやり直そうとしたところ、コンテナがホールドの付近で大きく揺れ、被災者側に大きく傾いたように見えた。被災者は念のためコンテナが落下しても影響がない場所へ上空を注視しながら退避したところ、コンテナが積まれていない場所を失念し、そのままコンテナ1段分落下し、船底に右足かかとを強打した。	40	100 ~ 299
6	14~ 15	港内の荷捌地にて、空のケーブルドラムを解体・梱包作業中、空のケーブルドラムを固定しているボルトとバーを外した後、立った状態のケーブルドラムを足で蹴って向かう側へ倒そうとしたところ、円形の部材が被災者の方向へ倒れてきた。逃げきれず、右膝部に当たり、被災した。	39	30 ~ 49
7	15~16	商品の仕分け作業中、パレットの上に乗って両手に商品を持ち、商品を運ぼうとした時にパレットから左足を踏み外し左に転倒しかけたので、とっさに左横の商品に両手をついて転倒は防いだが、倒れまいとふんばった右足が床に落ち、右足の人さし指を床に打ちつけてしまった。	50	30 ~ 49
7	10~11	ハッチ2槽目を水揚中、モッコに入った冷凍鰹を船上クレーンで水揚げする際、安全な場所へ移動したが、その場所に積んでいたキハダマグロ（約30kg）4~5尾が1m位の高さから滑り落ちてきた。反対側へ逃げたら、水揚げしようとしていたモッコにぶつかった。その時、キハダマグロの尾の部分がモッコからはみ出していて、そこへ右脇腹をぶつけ負傷した。	36	30 ~ 49
9	10~ 11	魚艙において、水揚作業中（冷凍魚）作業員交代のため、魚の上を歩いていった所、足が滑り魚の上に転んで負傷した。	56	10 ~ 29
11	8~9	上屋2号棟にて玉ねぎ、大根、キャベツの40フィートデバン作業中、貨物が突然荷崩れを起こし、当事者に当たり、外に投げ出され地面に落下した際、顔を強打してしまった。（ヘルメットは着用していた。）	48	30 ~ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html